

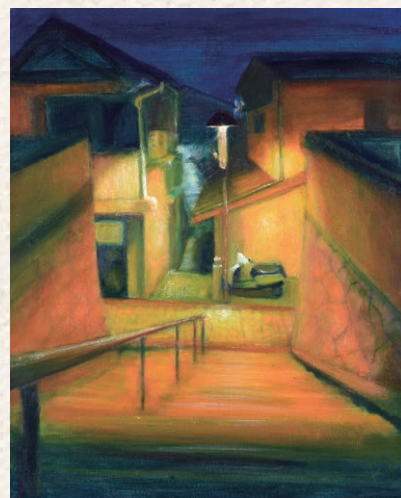
尾道賞



「坂道」 中間 丈太郎
広島県立広島観音高校 (広島県)
アクリル画



「道」 五藤 沙奈
広島県立熊野高等学校 (広島県)
アクリル画



「暖色の夜」 有本 匠
広島県立熊野高等学校 (広島県)
アクリル画



「海へ続く道」 永井 蘭
兵庫県立三木東高等学校 (兵庫県)
アクリル画

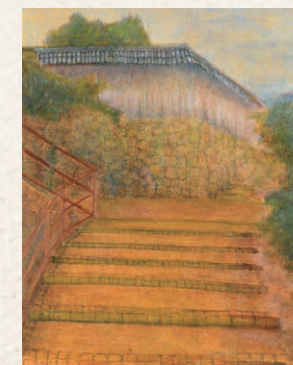


「自然と街の表情」 池田 大剛
京都先端科学大学附属高等学校 (京都府)
水彩・アクリル画

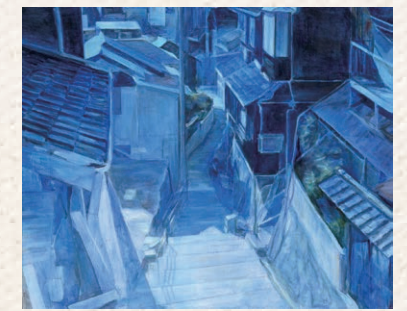
秀作



「華胥」 永井 ひなた
明誠学院高等学校 (岡山県)
油彩画



「午後の散歩」 北中 拓未
滋賀県立膳所高等学校 (滋賀県)
油彩画



「碧い風景」 田村 淑夏
前橋市立前橋高等学校 (群馬県)
油彩画



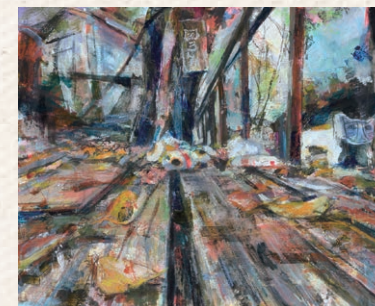
「風薫る」 上野 彩花
大分県立芸術緑丘高等学校 (大分県)
油彩画



「恍惚」 砂田 絵美
広島県立尾道東高等学校 (広島県)
油彩画



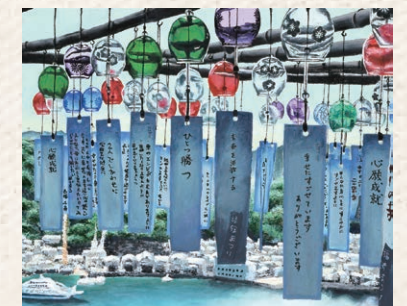
「燈る」 今田 颯之介
広島市立基町高等学校 (広島県)
油彩画



「福石猫の村」 山本 みちる
大分県立芸術緑丘高等学校 (大分県)
アクリル画



「猫は見る」 角 香野子
広島県立廿日市高等学校 (広島県)
アクリル画



「風鈴」 西塚 千尋
広島県立安芸府中高等学校 (広島県)
アクリル画

審査員より



隔年で開催されてきた高校生絵のまち尾道四季展は、令和5年の今年で第12回を迎えました。公募に際して全国の高校生のみならず、自身の感性と情熱を最大限発揮し作品と向かい合い制作をされたこと、またそれぞれの高校で指導に当たられた先生方のご尽力に對しまして、あらためて感謝するとともに御礼申し上げます。

今回の出品作品総数は214点となり前回の第11回より28点増え、新型コロナウィルス感染症による影響も少しずつ回復傾向にあるように感じられました。また審査はいつも以上に慎重かつ公正に行い、時間と協議を重ねながら入賞ならびに入選作品の選出を厳正に行いました。いかにも尾道らしいテーマを扱った作品から、ユニークな視点をもとに尾道の新たな魅力を伝える作品まで、バラエティに富んだ107作品が入選となり、その中からさらに挙手と投票を繰り返した結果、尾道賞が10点、秀作が9点選出されました。

選ばれた作品はどれも力作ばかりで、非常にレベルが高く、審査が難しくもあり、また悩ましくも嬉しい機会となりました。特に入賞となった作品は高校生らしい若々しい感覚で、独自の表現を追求しつつ画面に定着した作品が多かったように思います。また惜しくも選外となった作品も、決して見劣りするものではなく、描く対象とテーマをはっきりと持つことで自ずと結果も違ってくるように思いました。機会があればこれからも再度チャレンジしていただき、表現することの楽しさを継続していただきたいと思っております。

近年、制作を進める過程で風景を写真に撮り、それを発想の一部として利用しながら描くスタイルが一般化してきているように思います。それ自体は決して悪いことではありません。むしろ大事なものは、その前提を踏まえた上で、写真では表現できないこと、「描く」ということの意味を自ら再考し、その先にある自分らしい表現を探ることこそが重要なのではないかと考えます。高校生の今、この瞬間でしか表現することのできない「尾道の四季」を描いた数多くの作品と出会うことに、今後とも大いに期待をしています。

審査員長
尾道市立大学芸術文化学部
美術学科教授 野崎真澄